

ゼネラルパッカー通信

平成27年7月期(第54期)
2014年8月1日▶2015年7月31日

証券コード:6267

世界の品質を
“包装”で守る



包装システムのトータルプランナー

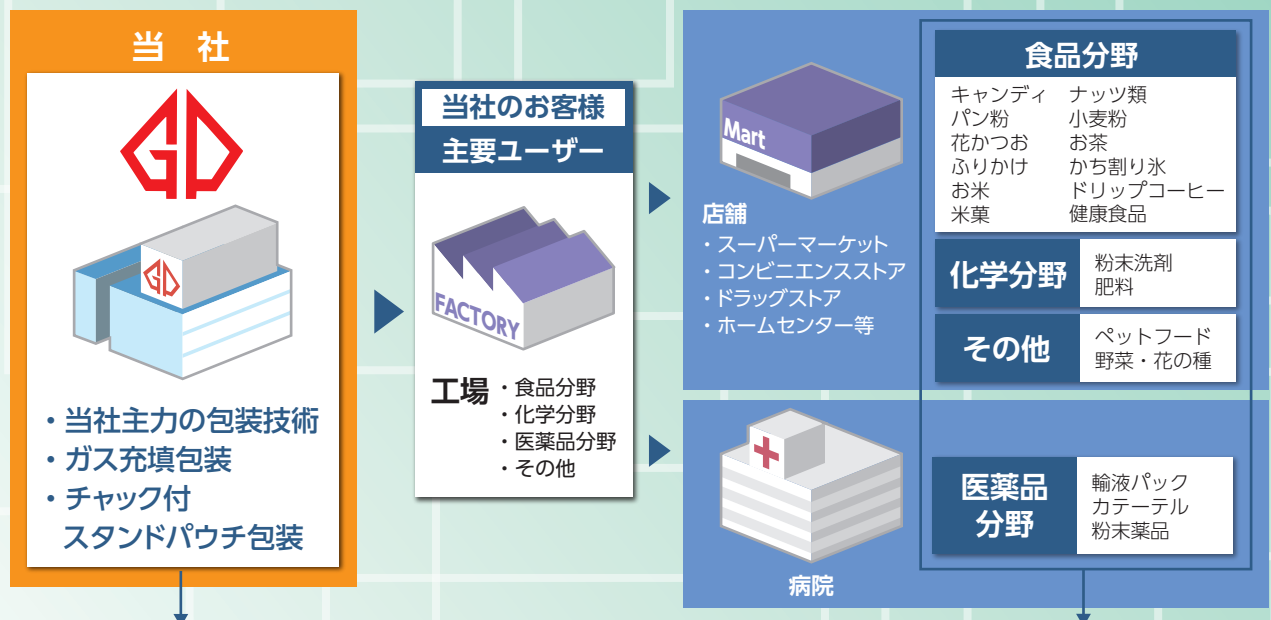


ゼネラルパッカー株式会社

■ 社 是 創造と挑戦 — 感ずる、信ずる、行動する —

■ 経営理念 わが社はつねに、独創的な技術を活かし、顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。

「ゼネラルパッカーは、包装システムの課題解決型メーカーです。」



魅力1 卓越した技術力
魅力2 優れた人材
新たな包装技術の創出を進めつつ、汎用性の高い製造技術を蓄積。また、全従業員のうち 1/3 が開発部および技術部に所属、トータル人事システムに基づき、業界認定によるスペシャリストを育成しています。

魅力3 既存分野での高いシェア
小麦粉、かつおパック、かち割り氷など、多くの分野でのトップシェア獲得が安定した収益基盤につながっており、当社は上場以来赤字がありません。
▶ P9へ

魅力5 安定した株主還元
DOE 2 %以上の安定配当を続けています。
▶ P5へ

「第4次中期経営計画」

■ 経営ビジョン
世界に飛躍する GP ブランド
One stop で応えるソリューションカンパニー
挑戦心と活気あふれる『ものづくり企業』

海外市場での成長基盤構築へ

持続的成長に向けてグローバル企業を目指す

国内 安定的な売上高の確保
● 顧客関係の深化、新機種の投入
● ソリューションビジネスの拡大
P6で特集

海外 海外事業の強化
● 中国・東南アジア 市場の販売基盤の確立
● 海外市場向けの商品拡大
海外市場 世界20カ国
・中国 ・タイ
・台湾 ・カナダ
・フランス など

魅力4 新規分野・海外分野への成長
これから伸びが期待される医薬品・介護分野、また海外マーケットでの成長を続けています。

経営目標	第4次中計
	H29.7期目標
売上高経常利益率	5.5%以上
ROA (総資産経常利益率)	5.5%以上
ROE (自己資本当期純利益率)	6.0%以上
業績目標	H29.7期目標
売上高	5,500百万円
営業利益	295百万円
経常利益	300百万円
当期純利益	200百万円

基本戦略

- 顧客関係の深化と新機種投入により、国内市場で安定的な売上高を維持する
- 海外事業を強化し、海外市場向けの売上高の大幅な伸長を目指す
- 顧客の期待にワンストップで応え、ソリューションビジネスの拡大を図る
- 競争力強化と海外市場開拓のための商品開発を推進する
- 顧客が安心して生産活動できる包装システムとサービスの提供で、顧客満足度を得る
- 事業領域拡大のための M&A・アライアンスを推進する

持続的に成長する企業を目指し 中期経営計画を遂行してまいります。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
ここに当社第54期（平成26年8月1日から平成27年7月31日まで）の営業状況をご報告し、これからの事業展開についてご説明させていただきます。ご一読の上、引き続き当社事業への深いご理解とともに、さらなる成長にご期待くださいますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 梅森 輝信

当期の事業環境と営業活動の成果

包装機械業界は、国内設備投資の堅調に加え、平成26年度の輸出高も2年連続で過去最高を更新し、全般的に回復傾向を示しています。平成27年1月から6月までの包装機械および荷造機械の生産金額は、合計約1,000億円の高水準を維持し、前年同期比4.2%増となりました（経済産業省 生産動態統計より）。

当社においても、既存顧客企業の設備投資の増加と同時に、海外市場の販路開拓による成果も表れ、販売台数を大きく伸ばすことができました。その結果、当期の売上高は3期連続で過去最高を更新し、利益面も販管費の増加をカバーして大幅な増益を遂げ、計画を上回る好業績となりました。

増収要因としては、特に給袋自動包装機の大幅な販売台数増が牽引した他、製袋自動包装機の高機能機種も売上を伸ばしました。また、高額保守案件の増加に伴い、保守消耗部品の売上が拡大しました。エンドユーザーの業界別に見ると、全体の約8割を占める食品業界向



けの売上高が前期比8.1%増の伸びを示し、化学関連業界向けの売上高は、医療分野の販売増加により同31.3%増と大きく改善しました。

3ヵ年中期経営計画の初年度として

第4次中期経営計画（平成27年7月期～平成29年7月期）は、「持続的成長に向けてグローバル企業を目指す」をテーマに掲げ、3年間で海外市場での成長基盤構築を目指しています。当期はその初年度として、中国・上海市に駐在員事務所、青島市にショールームを開所した他、現地展示会への出展等を通じて中国市場の開拓を強化しました。

結果として当期は、ソリューションビジネス拡大施策の奏功による大型案件の実績もあり、中国での販売台数が著しく増加しました。また、台湾やインドネシア、ベトナム、タイでも前期を上回る納入実績を上げました。

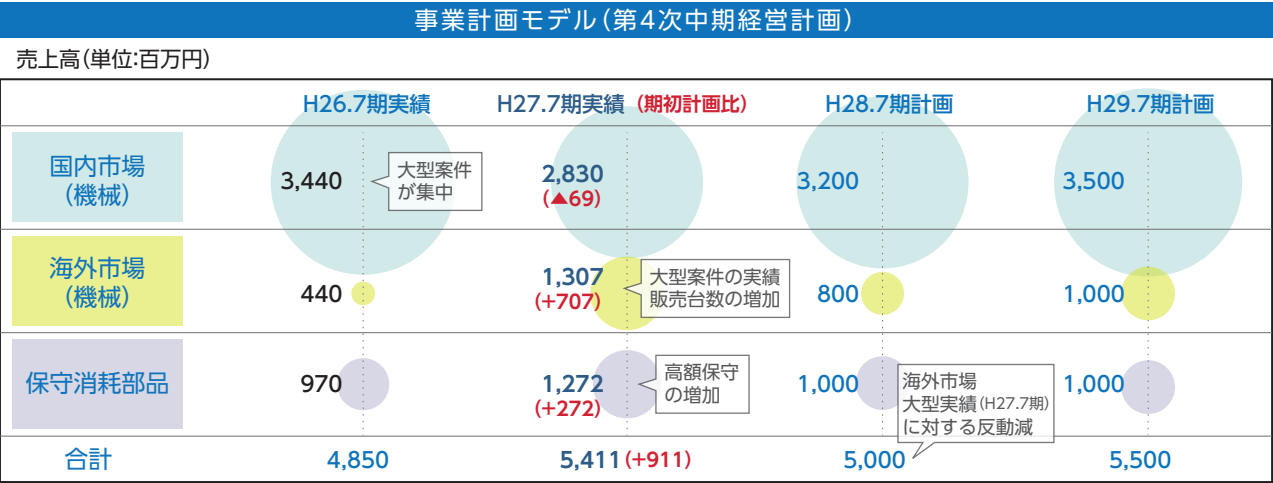
当期の海外市場における機械売上高は、当初目標の6億円を超えて13億円となり、保守消耗部品も含めた海外売上高比率は、前期の11.5%から27.1%にまで上昇しました。

第4次中期経営計画では、初年度の減収・減益を見込んでいましたが、前述の通り当期業績は一転し、増収・増益を果たしました。次年度および最終年度については、今のところ計画数値を変更せず「経常利益2億円以上の安定的確保」を目安とする収益の安定化と拡大に努めてまいります。

事業計画モデルに基づく今後の展望

当社は第4次中期経営計画を通して、国内市場の売上規模を維持しつつ、海外市場での成長を果たし、全体の収益を拡大していく施策に取り組んでいます。

この計画に基づき、第55期の国内市場は、需要の堅



調を踏まえて売上高32億円を見込み、第56期には35億円まで増加させていきます。また海外市場の売上高は、当期の大型案件実績の反動で、第55期は一旦8億円に減収する見通しですが、第56期には10億円を目指します。保守消耗部品の売上高は、10億円を今後2年間維持する計画です。

以上により第55期の業績は、売上高50億円（当期比7.6%減）、営業利益2億4千8百万円（同20.9%減）、経常利益2億5千万円（同21.8%減）、当期純利益1億6千5百万円（同26.5%減）を予想しています。第54期は一時的な需要の増大により上ぶれましたが、中期経営計画に則った当初の収益計画に変更はありません。

株主の皆様へのメッセージ

今回の期末配当は、業績の好調を踏まえて1株当たり

5円（1円50銭増配）とさせていただきました。これにより、第2四半期末配当の同4円と合わせた年間配当額は、同9円（2円増配）となりました。

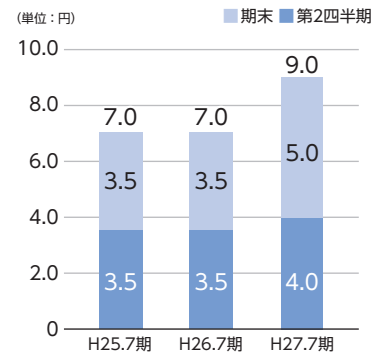
なお当社株式については、平成28年2月1日付で5株につき1株の割合をもって併合し、同時に単元株式数を1,000株から100株に変更することを決定いたしました。わかりやすく売買しやすい投資単位で、より多くの方々に当社株式を保有していただくための施策としてご理解いただきたく存じます。

当社は、安全・確実な包装技術による社会的貢献を果たしながら、「健全かつ強い体質で永続的に発展する会社」を実現し、株主の皆様のご期待に応えてまいります。今後とも当社事業への継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

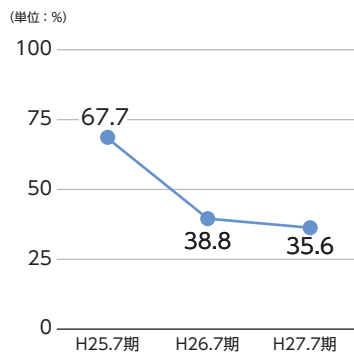
株主還元方針

株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、配当性向 50%または純資産配当率（DOE）2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。

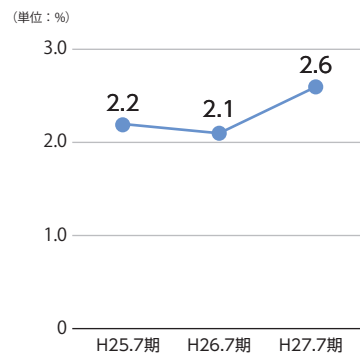
1株当たり配当金



配当性向



純資産配当率（DOE）



特集 システムソリューションを強化 提案力を活かして市場を深耕

当社は「第4次中期経営計画」の基本戦略に掲げるソリューションビジネスの拡大を図るべく、昨年8月に「システムソリューション部」を設置しました。トータルな提案力を活かした顧客ニーズへの対応は、受注件数の増加に向けて着実に成果を上げています。

包装プロセスをトータルにサポート 顧客ニーズにワンストップで応える

顧客が求める多様な包装ニーズに搬送から梱包までワンストップで対応し、コスト低減と納期短縮によるメリットをもたらします。また、トータルな提案は、当社の受注機会拡大と、個別案件よりも高い受注単価の獲得にもつながります。引き続き営業部門と開発設計部門の連携を強化し、システムソリューションを推進していきます。

■コンサルティング

生産ラインの現状分析、原因追及、解決策の提案

■最適な生産ラインの提案

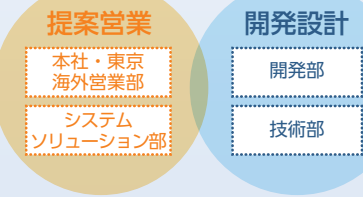
生産したい製品に対して、最適な生産ラインの提案

■新しいニーズへの対応

新しい包装ニーズに対して、柔軟に対応し、最適に提案



【トータルプランニング体制】

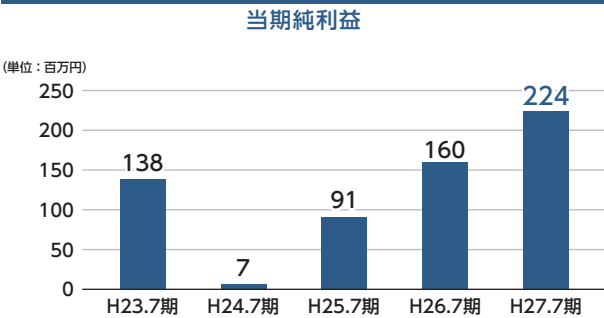
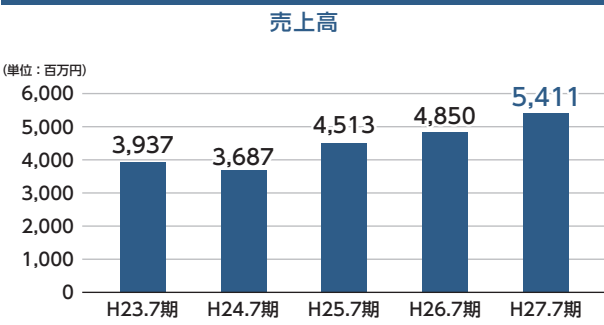


活動報告 in CHINA

製袋自動包装機 8 台とシステムを一括納入

当社は、中国市場における販売基盤の確立に向けて上海駐在員事務所を設置し、2015年1月より積極的な営業活動を展開しています。この度、江蘇省常州市の現地食品メーカーに海外初となる大型包装システム（製袋自動包装機8台とシステム）を無事納入いたしました。新工場の全自動ライン化と、チャック付スタンドパウチ包装の採用に伴うニーズに応えたものです。引き続き当社製品の高い性能と信頼性を武器に、現地市場を開拓していきます。



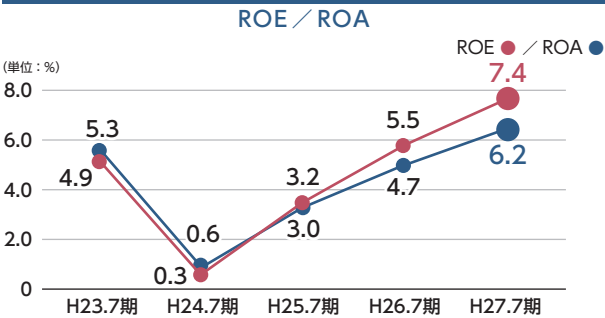
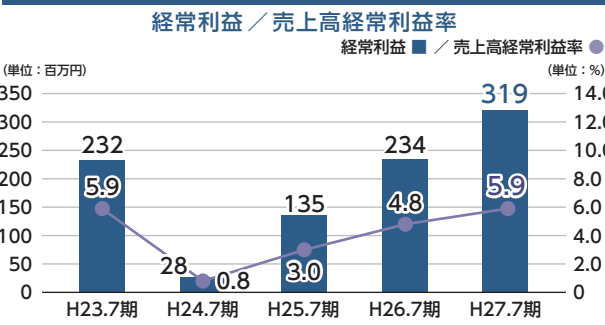


経営成績に関する定性的情報

当期におけるわが国経済は、個人消費に一部弱さが見られたものの底堅い動きが続き、雇用・所得環境や企業収益については改善が見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

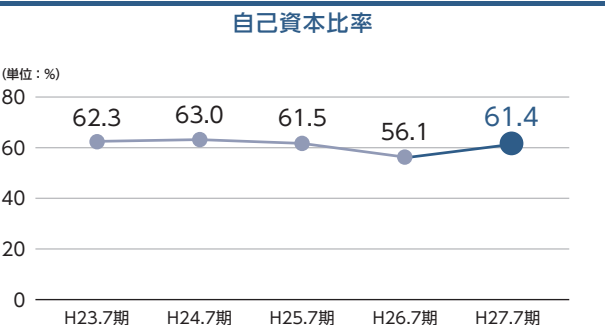
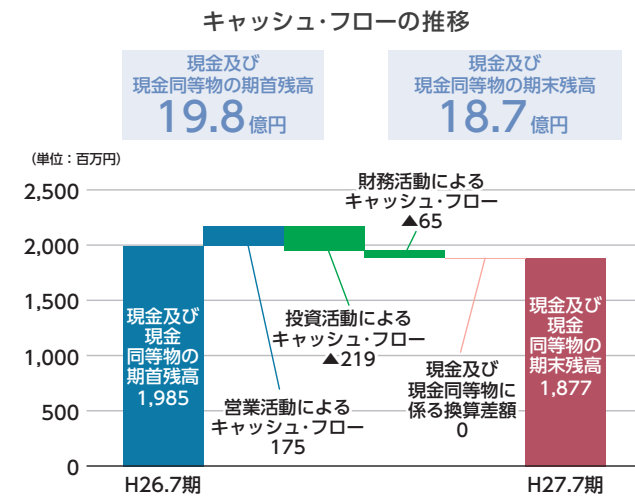
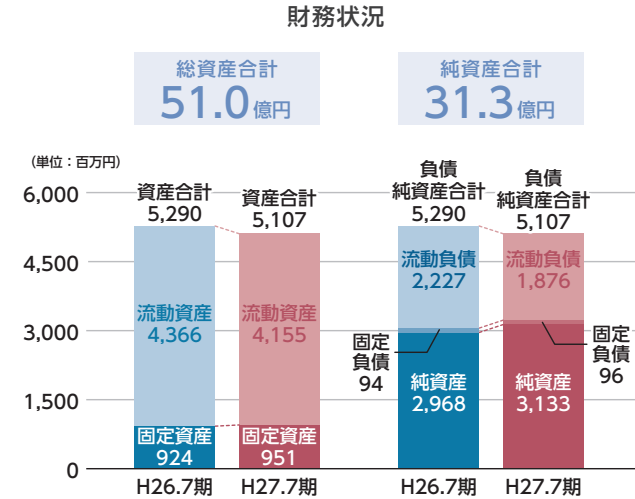
このような状況のなか、当社は海外事業の強化、ソリューションビジネスの拡大に取り組んでまいりました。

当期の売上高につきましては、既存顧客企業の設備投資需要の増加や海外市場の販路開拓の効果により、汎用タイプの自動包装機の販売台数が大きく



増加したことから、前期に対し560百万円の増収となり、3期連続で過去最高の売上高を達成いたしました。

収益面につきましては、研究開発費等の増加に伴い販売費及び一般管理費が前期より大きく増加したものの、増収効果による売上総利益の増加により、営業利益及び経常利益並びに当期純利益は前期に対し増益となりました。



財務分析

当期における流動資産は、売上債権及びファクタリング方式により譲渡した売上債権の未収額の合計額が418百万円減少したこと等により前期に比べて210百万円減少いたしました。流動負債は、仕入債務が減少したこと等により前期に比べて351百万円減少いたしました。純資産は、利益剰余金が増加したこと等により前期に比べ164百万円増加いたしました。

キャッシュ・フロー分析

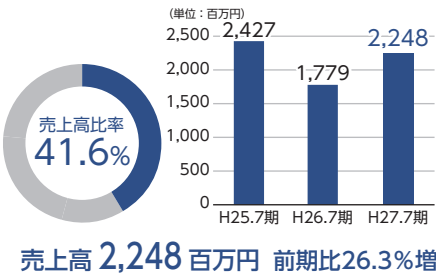
営業活動の結果獲得した資金は175百万円となりました。収入の主な内訳は、税引前当期純利益319百万円、売上債権の減少額481百万円等であり、支出の主な内訳は、仕入債務の減少額510百万円、法人税等の支払額82百万円等であります。投資活動の結果使用した資金は、定期預金の純増額160百万円、無形固定資産の取得による支出43百万円等により219百万円となりました。

品目区分別の状況

給袋自動包装機（ガス充填自動包装機含む）



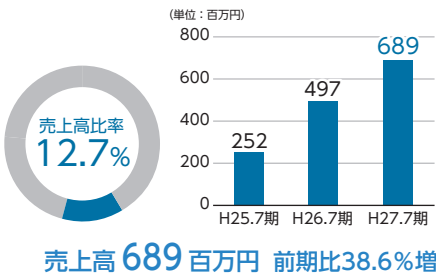
給袋自動包装機は、販売台数が前期より増加したことから、売上高は2,248百万円（前期比26.3%増）となりました。



製袋自動包装機



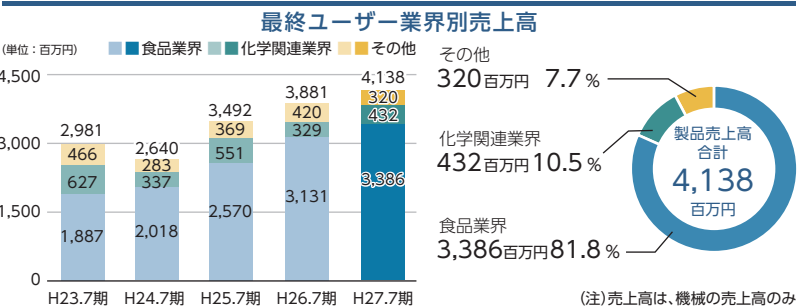
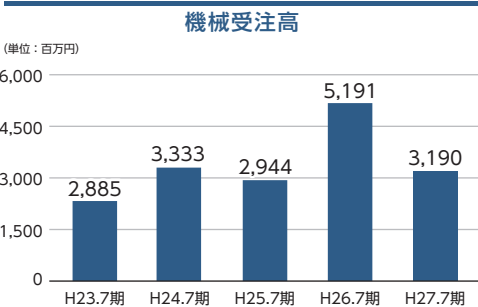
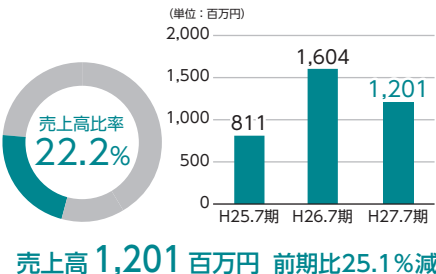
製袋自動包装機は、高機能機種の販売台数が前期より増加したことから、売上高は689百万円（前期比38.6%増）となりました。



包装関連機器等



包装関連機器等は、大型包装システムの販売実績が前期より減少したことから、売上高は1,201百万円（前期比25.1%減）となりました。



会社・株式情報

会社概要（平成27年7月31日現在）

商 号	ゼネラルパッカー株式会社	
英 文 社 名	GENERAL PACKER CO., LTD.	
設 立	昭和41年2月（創業 昭和36年12月）	
資 本 金	2億5,157万7千円	
事 業 内 容	各種自動包装機・荷造用機械及び周辺装置の製造・販売・修理、それに附随する一切の業務	
従 業 員 数	131名	
本 社 ・ 工 場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺 神明65番地 Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222	
	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 三丁目5番地8 神田木原ビル4F Tel. (03) 3256-3891 (代) Fax. (03) 3256-3893	

取締役及び監査役（平成27年10月23日現在）

代表取締役社長	梅 森 輝 信	
専務取締役	小 関 幸太郎	管理部 兼 資材部担当
常務取締役	鈴 木 完 繁	生産部担当
取 締 役	牧 野 研 二	開発部長 兼 技術部担当
取 締 役	尾 関 津 義	営業本部長 兼 システムソリューション部担当
取 締 役	濱 田 兼 幸	
常勤監査役	福 井 義 雄	
監 査 役	村 橋 泰 志	
監 査 役	浅 井 一 郎	

株式の状況（平成27年7月31日現在）

発行可能株式総数	28,000,000株
発行済株式総数	8,994,000株
株主数	832名

大株主（平成27年7月31日現在）

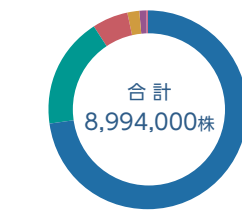
株主名	持株数 (株)	議決権比率 (%)
株式会社ワイ・イー・データ	1,350,000	15.20
ゼネラルパッカー従業員持株会	1,338,000	15.06
原 利子	399,625	4.49
株式会社りそな銀行	392,000	4.41
ゼネラルパッカー取引先持株会	380,000	4.27
高野 季久美	364,000	4.09
田中 かなな	364,000	4.09
梅森 輝信	252,000	2.83
島末 孝法	196,000	2.20
原 紳二郎	150,250	1.68

株主数構成比



個人・その他	786名	94.47 %
その他法人	20名	2.40 %
証券会社	16名	1.93 %
金融機関	6名	0.72 %
外国人	3名	0.36 %
自己名義	1名	0.12 %

株式数構成比



個人・その他	6,566,560株	73.01 %
その他法人	1,617,400株	17.98 %
金融機関	519,000株	5.77 %
証券会社	177,022株	1.97 %
自己名義	107,018株	1.19 %
外国人	7,000株	0.08 %

IR サイトでも、詳しい情報を提供しています。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。
今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

http://www.general-packer.co.jp/ir_index.html

企業ホームページ
最優秀サイト

日興アイ・アール
新興市場ランキング

4年連続受賞

主なコンテンツ

経営方針・戦略

当社の企業ビジョンや中期経営計画、CSR 情報などをご覧ください。

決算・IR資料室

アナリスト向けの決算説明会の様子が動画でご覧いただけます。

1. 決算説明会
2. IR カレンダー
3. 個人投資家の皆様へ

お勧め情報 ランキング新設

IR サイトの中から株主や投資家の皆さまのお役に立つ、当社お勧めの情報をランキング形式で紹介します。(不定期更新)



個人投資家の皆様へ

業界情報や事業内容や特長、配当についてわかりやすく解説しています。



▲トップページ

株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社

同事務取扱場所	〒103-8202 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店
お問い合わせ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 Tel. 0120-707-843 (フリーダイヤル)

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL <http://www.general-packer.co.jp/>

各種手続きのお申出先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構（ほふり）をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。証券保管振替機構（ほふり）をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。



包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

●本社・工場
〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地
Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222
●東京営業部
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel. (03) 3256-3891 (代) Fax. (03) 3256-3893

